

虚子記念文学館投句特選句

・令和三年十月

稲畑汀子 選

新酒てふただそれだけのことなれど

兵庫

小杉伸一路

秋蝶の翅に朝の空の色

兵庫

山田佳乃

ビルといふ置物並ぶ神の旅

神奈川

進藤剛至

新米やとぎつつ五指の弾みたる

兵庫

福間笙子

桔梗や一村いまも光秀派

大阪

生澤瑛子

添水の音庭の静寂のありてこそ

奈良

好川忠延

柿熟るる今日の夕日の色をして

大阪

杉山千恵子

虚子館に集ふしあはせホ句の秋

大阪

多田羅紀子

虚子館の地下の集ひも秋日和

兵庫

内田泰代

過ぎてゆく群れの高さや囀鳴く

兵庫

武田奈々

(青少年)

入選句・令和三年十月

しばらくは萩を見て入る記念館	兵庫	岩鼻絹子	結はれて色確かなる紫苑かな	滋賀	大久保 樹
丸き物ばかりの供物月祀る	奈良	河村久美子	しののめに逸る囀の羽音かな	兵庫	武田優子
無礼講にて虚子館へ小鳥来る	石川	村上秀吾	虚子館を訪ふ人多き秋日和	石川	辰巳葉流
庭先にばつたを探す汀子邸	兵庫	前田容宏	実南天たわわ町家の暮らしぶり	京都	山崎貴子
紅葉して薄墨桜も黄桜も	兵庫	長安悦子	みよし野は桜紅葉の大宇宙	京都	西村やすし
秋晴を闊歩髪染むことを止め	兵庫	齊木富子	里山を活気づかせる吊し柿	兵庫	深尾真理子
白鳳城桜紅葉でありにけり	三重	前出公子	母の名の露草の青開きけり	兵庫	岸川佐江
天主より見渡す限り豊の秋	三重	前出美千子	芦屋駅より三軒の松手入	兵庫	藤井啓子
爽やかや我が俳磚に励まされ	石川	牧野妙子	篠笛の闇に溶けゆく十三夜	大阪	山田 天
健脚の自信は少し花芒	兵庫	黒田千賀子	虚子館は心の軸と文化の日	大阪	林 曜子
自肅解け露けく語る一会かな	兵庫	平田 恵	身に入むや何でも忘れ忘れられ	兵庫	槌橋眞美
桜紅葉見よとフェンスをはみ出して	京都	宮本幸子	秋日傘くるくる巻いて一日終ふ	兵庫	吉村玲子
青空へ大きく桜紅葉かな	三重	松村咲子	白壁の陰なほ白し吊し柿	兵庫	永沢達明
彼岸花蕊のアンテナ並びけり	兵庫	川村ひろみ	鑑賞の余韻にひたる秋の暮	兵庫	奥田好子
虫喰ひてふ桜紅葉のアートかな	兵庫	小柴智子	秋声を束ねし館の庭の風	鳥取	前田 千
桜紅葉松並木へと芦屋川	兵庫	西村正子	館の木々照らして秋の日の傾ぐ	大阪	辻田あづき
秋晴や浴びる朝日に長き影	大阪	田村禮子	掌に馴染む胡桃ひとつの重さかな	兵庫	中村恵美
天守に立ち天下国家や秋晴るる	大阪	山下幸典	敬老の日に孫からの絵手紙哉	兵庫	天野政義
秋日和自肅解かれて歩の軽し	兵庫	森岡喜恵子	暦日の俳磚に人偲ぶ秋	兵庫	池田雅かず
俳磚に金のゆたかな水引草	広島	広川良子	虚子館の空は水色小鳥来る	兵庫	玉手のり子
秋晴るるともコロナ禍の不安まだ	大阪	谷本房子	ばつたんこ水喜びて遊びをり	兵庫	岩水ひとみ
水分の神は深吉野水の秋	大阪	窪田由紀子	日の傾ぐ舞鶴湾の島の秋	京都	杉森大介
球場の静寂を照らす月の秋	兵庫	宮本露子	仏足石草の花にて囲まれし	兵庫	小川孝子
君笑う木もれ日の下曼珠沙華	兵庫	山中慶子	ひとりゆくみちのくの里そぞろ寒	奈良	堀ノ内和夫
潮風にむすぶ芦屋の新松子	大阪	田邊育子	新蕎麦をつるつとすすると秋感ず	大阪	鈴木 萌
ころころと森の音する胡桃かな	兵庫	涌羅由美	秋晴れに輝くヨドコウ迎賓館	大阪	奥川 凌
米見えぬ程敷き詰めて栗ごはん	大阪	西尾浩子	蔦もみじ高校球児が夢の跡	大阪	桂川とし
鴨囀投げてひたすら待つ一日	徳島	奥村 里	師の庭に露寒の身を正しけり	大阪	石橋玲子
			山の日へ残る石榴の弾けやう	兵庫	二瓶美奈子

庇掠め黄葉となりし記念木	兵庫	細田清子
露寒や山の旅籠の糸車	兵庫	鈴木秋峰
助手席の友は虚子集秋の旅	愛知	小野 薫
丹波路の旅にとけこむ柿日和	大阪	辻 昌子
草の実の群がる中に弾けをり	兵庫	山岸正子
今朝の川第一陣の鴨飛来	兵庫	山崎渺美
護摩供養終へし菩提寺小鳥来る	兵庫	三木雅子
横川へと思ひを馳せる西虚子忌	兵庫	大西美知子
廃線に物語あり秋の蝶	兵庫	伊藤秀子
山風に有馬の夜の肌寒し	奈良	芳林淳子
どんぐりをちよつと蹴飛ばし朝の道	兵庫	道中義臣
ひと目避け齧る干し柿ひと休み	千葉	樽谷幸龍
朝の月朔へ向かうや冬支度	兵庫	朱麻
鈍行の窓に並べし蜜柑かな	兵庫	高市敦之
神宿る丘の賑はひ胡桃かな	兵庫	塚本武州
桔梗の墓前に拗ねるつぼみかな	神奈川	小堀公美子
子ら胸に银杏落葉の金メダル	石川	伊東弥太郎
コロナ禍に向かふが如し枯芙蓉	東京	木村三球
快晴の空を突き刺す鴉の声	石川	辰巳昌彦
わだかまり遺して逝けり白桔梗	神奈川	平野孤舟
自粛とき心ゆくまで紅葉狩	兵庫	田村惠津子
蓑虫や天啓のごと降り来たる	兵庫	キートスばんじょうし
色かへぬ芦屋の松の幹太し	兵庫	阿曾宏之
絡む草絡まるる草秋深む	埼玉	土井洋子
ひと雨に移ろひてゐる花野かな	東京	宮村土々
キーボード乱打する吾子秋うらら	和歌山	中島紀生
秋深し変わらぬ声の長電話	神奈川	金子三奈乃